

# 現代舞踊公演「DANCE ALIVE 2019」と関連するダンスワークショップの開催

## DANCE ALIVE 実行委員会

### 活動の目的

現代舞踊は、創作を基盤とする創造的芸術であり、白紙の状態から独自の表現を追求する行為は、多様な個性を受け入れ包括する社会を牽引するものとする。しかし、現代舞踊は身体と対峙して「自ら創ること」が基盤ゆえに、SNS等のコミュニケーション手法で繋がることも難しく、大学卒業後は仲間や場所を失い、創作・発表の機会を得られず辞めてしまうことが多い。我々は、出身大学を問わず集い、公開型の発表を行うという目標を設定、またその相互交流により地域社会が文化的に成熟することを目指して、実践を進めている。具体的には、交流と研鑽及び次世代育成も視野に入れた舞踊公演「DANCE ALIVE」開催とその関連事業（ワークショップ等）を行っている。

### 活動の内容及び経過

現代舞踊の地域への浸透・理解は未だ途上であり、公演に作品を持ち寄るだけでなく、交流と研鑽の質を高めるさらなる工夫が必要であると考えられた。2016年度より行っている上演作品に関連するダンスワークショップや、2017年度からプログラムに組み込んだ観客と対話しながら即興のダンスを披露するトーク&インプロ・ダンス等は、現代舞踊に初めて触れる方に好評であり、精査しつつ継続する意義があると考えられた。しかし、作品の創作過程や作品の質を高める視点、地域連携や広報等が未だ不十分であり、これらの点については強化が求められる。そこで、2019年度は、交流と研鑽の質をさらに高める実践の展開、及び学校機関を中心とした地域連携の強化を目指した。現代舞踊公演「DANCE ALIVE 2019」は、2019年11月17日に倉敷公民館ホールにおいて開催された。それぞれの作者の独自の表現世界を楽しむことができる作品の上演とともに、ワークショップ、トーク&インプロ等も、ホールを効果的に使用して行うことができた。公演の1か月前には、大学生を対象に創作途中の作品を披露する試演会を行ったり、高校ダンス部の研修会にメンバーが講師として招聘されたりする機会があった。事前に現代舞踊の魅力を伝えることができ、併せて広報を行うこともできた。

### 活動の成果・効果

2019年度の取組みを総括すると、以下のような新しい取組みにより、出演者の意識向上や新しい客層の開拓につながった。

- (1) 試演会と交流型ワークショップの開催…岡山県立大学の大学生に公演の前に創作途中の作品を鑑賞してもらい、意見交換を行った。本番に向けて作品完成への示



唆を得ることができた。また、その後大学生と一緒に交流型ダンスワークショップで触れ合いを楽しむことができた。

- (2) 高校ダンス部とのネットワーク作り…メンバーの一人が、岡山県高校ダンス協議会の講習会に招聘されて講師を担当し、現代舞踊の魅力を高校生ら次世代に伝えることができた。公演前であったため、広報も行うことができた。
- (3) 倉敷公民館という新しい環境への挑戦…文化の香り高い倉敷美観地区で初めて公演を行うことができ、趣のあるホールにふさわしい表現を考えることができた。観光客や外国の方にも鑑賞いただくことができ、非常に良かった。

### 今後の課題と問題点

今後の課題としては、引き続き広報の強化と、公演に出演しやすい仕組み作りを考えていく必要がある。対応策としては、以下のような試みを検討している。現代舞踊を継続する意思は、大学卒業時に絶たれることが多い。今後は、大学ダンス部現役生との関わりを深めて、本実践の周知により、学生が大学を卒業しても地域で創作表現を行うことができるビジョンを持てるように努めていきたい。また、踊る意欲はあるが、創作する余裕がないという人たちのために、実行委員会が受け皿となって企画作品を準備する等、出演者や作品の幅をより広げていくことを模索していきたい。「DANCE ALIVE」の継続的な出演者は、地域への発信や自らが地域に還元できることについて、高い意識を持つよう変化してきている。これからも地域の文化の一翼を担うという気概を持ち、地道に活動を続けていく予定である。

- 代表者：新山順子 ●所在地：総社市窪木
- TEL：0866-94-2043 ●E-MAIL：niiyama@fhw.oka-pu.ac.jp
- 設立年：2016年 ●メンバー数：7名